

## 第 13 回伊那市誌編さん委員会議事録

開催日時	令和 5 年 7 月 19 日（水）13 時 30 分～15 時 05 分
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出席者	編さん委員：17名（欠席：3名） 事務局：教育次長、室長、担当（教育長欠席）
会議目的	年表の作成、編さん事業の広報、執筆マニュアルについての意見交換

### 【会議事項】

- 1 年表の作成について
- 2 市誌編さん事業の広報について
- 3 執筆マニュアルについて

### 【会議内容】（討議、意見交換による検討事項、決定事項）

#### 1 年表の作成について

##### <検討課題>

- ・年表の作成方針として、「読む・見る・感じる年表」「各編の内容を反映した年表」「近現代の中でも過去 50 年くらいを充実させる」「令和 11 年度の発刊を目指す」を挙げた。作成内容として、年表のスタイルは、他編と同じ「A4 縦版、横書き」とし、「世界や日本の主な出来事を載せる」「合併前 3 市町村は色分け等の工夫をして区別する」。ページ配分は 250 ページを想定し、時代配分等は今後検討していく。重要な出来事については、QR コードから関連する新聞記事、画像、映像、音声や市誌本編の該当ページとリンクさせたい。作成体制については、新たに「年表部会」をつくり、春日委員長、塚田委員、伊藤秀男委員、畑委員、早川（事務局）が担当することを提案する。（事務局）
- ・年表の場合、どういう項目を取り上げるかが最重要になるが、それぞれの部会がある中で、項目の取り出しをどうしていくか。（委員）
- ・年表には、各編の重要事項をピックアップして掲載していくことになるであろう。（委員長）
- ・「読む・見る・感じる年表」という視点は、年表を作るときのスタンスとして重要。（副委員長）
- ・50 年間の何をどう取り上げていくかを考えていかないと、ただ難しい年表になってしまう。読み取り易さ、そこから感じるができるような年表にしていきたいという思いから出てきた言葉である。（委員）
- ・作成のコンセプトを索引的なものにするのか、読む年表にするのか。先ず、何を目的として作るのかを考えていくことが重要である。（委員）
- ・見るとか感じるとかいうと、文字だけでなく、そこに図があったり、写真があったりするのか。QR コードからのリンクもあると思うが、できれば年表の中に図版を載せて、それだけで伊那市の歩みが見て取れるようなものになればよいと思う。（委員）

- ・上田の博物館で発行した年表は、左ページに年表、右ページに図版や写真、コラム等が掲載され、まさに見て感じる年表になっており、読者を引き付ける工夫がなされていた。出来事がただ並んでいるような年表ではない年表を作っていきたい。さらに、新たな取り組みとして、重要な出来事にはQRコードを付けて、そこから新聞などのメディアに引っ張ることができれば、大変有効な年表になると考えている。(委員長)
- ・紙媒体からQRコードを貼って、市誌編さん室のデジタル室なり、インターネット上に設けた部屋に飛ばすことにより、新たな資料を探せることになる。そういう仕組みを年表のどこかに作ることによって、関連する他の分冊に行くこともでき、利用者の使い方の幅が広がってくる。(委員)

#### <決定事項>

- ・年表編を作ること、新たに年表部会を先ほど提案されたメンバーで立ち上げ、畑委員を部会長とすることを確認し、本日出された意見を参考に年表作成に取り組んでいく。(委員長)

## 2 市誌編さん事業の広報について

#### <検討課題>

- ・市誌編さん事業において、興味深い内容、調査等で分かったこと、活動の様子、決定事項等を広報していきたい。現在事務局で考えているものの1つ目として、伊那市のホームページの中の「市誌編さん」のページにある“活動報告”の欄に随時掲載していく。2つ目は、『いなしる』(広報紙)を作り、市報の回覧文書として出していくことを検討している。年2回の発行を予定しており、今年度は12月の市報に合わせて発行していきたい。それとともに、市報の中のコラム「市誌編さん室だより」も継続していく。3つ目は、『いなチャンネル』(市の広報番組)の活用。4つ目は、編さん委員を講師とする公開講座の企画であり、今年度は歴史シンポジウムに市誌編さんを絡めた内容を入れていく方向で、文化財係と調整している。今後各部会からヒアリングを行い、広報の年間スケジュールを作成していきたい。(事務局)

#### <決定事項>

- ・各部会においては、4つの媒体を活用した広報活動への協力をよろしくお願いいたします。(委員長)

## 3 執筆マニュアルについて

#### <検討課題>

- ・執筆マニュアルについては、今後業者との打ち合わせの中で、変更や追加が出てくる。マニュアルどおりとなると大変な作業になるので、少しラフな形で出してもらっても構わないが、図版のスペース等を考慮して、ある程度の文字量を決めてほしい。(事務局)
- ・校正作業の経験の中でその大変さを実感している。業者が決まり次第、図版等を含めどこまでこちらでやるのかなどを詰めないと、原稿作成に入っていけない。最初はベタ打ちの粗原稿でもよいが、最終的には精度を高めて入稿していきたい。(副委員長)
- ・困っていることが2つある。原稿に載せる写真と、図表のレイアウトである。(委員)
- ・手持ちの写真が使えない場合、誰かに撮影を依頼するか、募集をかけることが考えられる。本に掲載されている写真を載せる場合は、スキャンして使うか、現物を改めて取り直す方法が考えられる

が、必要な写真があれば事務局に相談してほしい。図版を載せる場合は、そのスペースを想定して文字を打ってもらうしかない。(事務局)

- ・文化財などは、市誌に掲載するものに限らず、撮影した写真を整理・保存していくことが重要である。(副委員長)
- ・現在調査を進めている仏教関係の文化財については、専門家に撮影を依頼しているが、新たに撮ることが困難なものは既存のものを活用せざるを得ない。写真等のデータの活用と保存のシステムを構築していく必要がある。(委員)
- ・自然編の植物関係は、写真を掲載すると盗まれたりすることがあるので、全てを掲載するつもりはない。(委員)
- ・民俗編では、例えば祭りなどある程度技術を持った方に撮影を依頼していきたい。(委員)
- ・ストックした写真はQRコードとインターネット上の部屋があれば、市誌編さんに係るデジタルアーカイブとして活用してもらうことができ、活用の幅が広がってくる。市誌の原稿については、まずは書きたいこと、使いたい図表や写真を整え、その次にレイアウトを考えていくことになる。(事務局)
- ・写真などは必ずしも1段に収める必要はなく、2段に渡るものや3/4位になるものがあってもよい。スペースに空きができれば、写真等を拡大するなどして調整してもよい。(副委員長)
- ・動画を静止画にした場合、紙面で耐えうるものになるのか、実際にやってみないと分からない。特に、SDという古い画像は厳しいか。(委員)
- ・これから年表部会では、デジタルアーカイブの部屋を作ることをイメージして作業を進めることになるが、ファイル形式がバラバラだと利用者にとって不便なものになってしまうので、何れかに統一し、マニュアル化しておく必要がある。(委員)

#### <決定事項>

- ・粗原稿の入稿・校正は、業者が決まったところでルール化し、編さん委員会に示していく。(委員長)

#### 【報告事項】

今後の各部会の開催予定について

別紙参照

#### 【その他】

次回 第14回編さん委員会の日程について

令和5年10月23日(月)13時30分 (市役所多目的ホール)